

認定特定非営利活動法人
オールしずおかベストコミュニティ

～ 令和2年度活動のご紹介～

- I メディアで紹介されたオールしずおかベストコミュニティ
- II 写真で見るオールしずおかベストコミュニティ



福祉と産業界・地域をつなぐ「オールしずおかベストコミュニティ」

目次



I メディアで紹介されたオールしずおかベストコミュニティ

広報実績一覧 1) 新聞-1 オールしずおかベストコミュニティ	4
広報実績一覧 1) 新聞-2 みらーと 2) 雑誌 3) テレビ・ラジオ	5
①遠州信金信用金庫(CSR) 職員使用マスクに福産品 / ②ふじのくに福産品「一人一品運動」	6
③ふじのくに福産品「ふじのくに福産品WEBカタログ」	7
④農福連携ワンストップ窓口開設	8
⑤この人 農福連携ワンストップ窓口 中部地区コーディネーター 大石昌稔さん	9
⑥「農福連携」県内広がる	10
⑦ふじのくに福産品「一人一品運動」ふじのくに福産品サマーフェア 県庁	11
⑧農福連携 ミカン園除草作業「ライク」	12
⑨四季彩堂 富士吉原店 販売会(CSR)「ほっこり市」 / ⑩静岡県労働金庫(CSR) 寄付	13
⑪ぬくもり工房(CSR)「福祉応援フェア」 / ⑫イーラ de(CSR) 展示販売会 / ⑬農福連携マルシェ 県庁	14
⑭はごろもフーズ(CSR) 株主優待品に福産品「げんきむら」 / ⑮障害者週間 障がい者アート・ふじのくに福産品展示	15
⑯ヘルプマーク推進フォーラム / ⑰セブン-イレブン・ジャパン エコバッグに福産品	16
⑱セブン-イレブン・ジャパン エコバッグに福産品 / ⑲静岡県労働金庫(CSR) 子ども食堂へXマスプレゼント	17
⑳ネットトヨタ浜松有玉店 啓発品に福祉事業所製品「工房いもねこ」 / ㉑静岡伊勢丹(CSR) ふじのくに福産品ブランド展示会	18
㉒農福連携 障害者社会参画へ 農業研修	19
㉓農福連携 自然薯栽培「ワークセンターりんどう」 / ㉔農福連携 イチゴ出荷箱組立「焼津の空と大地と」	20
㉕富士信用金庫 森島支店(CSR) 障がい者アート展示会	21
㉖ふじのくに福産品「バレンタインフェア&農福連携マルシェ」県庁 / ㉗ふじのくに福産品ブランド	22
㉘この人 認定NPO法人オールしずおかベストコミュニティ 西部センター長 河島美津夫さん	23
㉙農福連携 ハナモモ「アグリッシュ西丘」 / ㉚静岡県交通安全協会 浜松中央地区支部 交通安全啓発品	24
㉛静岡県遊技業協同組合(CSR) 端玉景品 / ㉜袋井特別支援学校 磐田見付分校 ウッドランプ	25
㉝サトウ園芸(CSR) 生け花「ありんこの里」 / ㉞イトーヨーカドー静岡店「ふじのくに福産品ブランド市」	26
み ㉟「みらーと WEB 美術館 風を創るひとたち」開設	27
ら ㊱みらーと東部拠点 障がい者アート展示会(沼津市) / ㊲みらーと「風を創るひとたち展」(沼津市)	28
ー ㊳この人 県障害者文化芸術活動支援センター「みらーと」西部拠点支援コーディネーター 鈴木結子さん	29
と ㊴みらーと東部拠点「障害者文化芸術発表会」(裾野市) / ㊵みらーと西部拠点「絵葉書ワークショップ」(浜松市中区)	30
㊶みらーと西部拠点協力「障がい者アート展示会」(浜松市中区)	31
㊷静岡ビジネスレポート No.1436 Report 企業産業レポート みらーと「風を創るひとたち2」発行	32
㊸静岡ビジネスレポート No.1438 Report 企業産業レポート 農福連携事業	33

※記事・画像等は、新聞社・雑誌社の許諾を得て、日付順に転載しています。

II 写真で見るオールしずおかベストコミュニティ

【1】新春講演会 / 【2】共同募金助成事業 ども食堂赤い羽根バースデイ「ども食堂誕生日会・授産製品応援事業」	34
【3】部会活動 研修情報部会による研修会	35
【4】農福連携による工賃向上支援事業、農福連携ワンストップ窓口運営事業	35
A. 農業技術向上に向けた研修	35
B. 農業技術向上個別支援	36
C. 製品販売会の開催	37
D. 農家等と事業所等のマッチング支援	38
【5】静岡県障害者文化芸術活動支援センター「みらーと」	39
A. 協力委員会の設置	39
B. 発表等の機会創出	40
C. 障害者週間街頭キャンペーン	41・42
D. ワークショップ	41・42
E. オープンアトリエ	43
F. 支援人材育成セミナー	44

広報実績一覧 1) 新聞-1

■ オールしずおかベストコミュニティ

No	掲載日	新聞社名	地域	記事見出し	頁
①	5/17	静岡新聞	西部版	北区福祉施設製 布マスク調達 遠州信金 使用始める	6
②	5/27	中日新聞		ふじのくに福産品 買って応援しよう 県障害者政策課が「運動」	6
③	5/28	静岡新聞		障害者施設から調達減 県や市町 2億9627万円 19年度 福産品の購入 県が呼び掛け ウェブサイト拡充	7
—	6/24	農業新聞		農福連携ワンストップ窓口開設 静岡県農家向け助成金も	—
④	6/26	静岡新聞		農福連携窓口開設 情報集約しマッチング 県、静岡市内に	8
⑤	7/16	静岡新聞		この人「農福連携」を推進するワンストップ窓口で中部地区担当のコーディネーターに就任した 大石昌稔さん(静岡市葵区)	9
⑥	8/17	静岡新聞		「農福連携」県内広がる 県やJA、マッチング強化 受け入れ農家5年で倍増 コロナ禍人材生かす	10
⑦	8/18	静岡新聞		障害者「福産品」購入通じ支援を きょうまで県庁でフェア	11
⑧	9/16	静岡新聞		ミカン園除草作業に汗 障害者就労支援事業所の通所者農福連携の一環 清水区	12
—	9/24	日経新聞		障害者、農業に手を貸して 静岡のNPO法人 福祉事業所を仲介 生きがい・健康づくりにも役立て	—
⑨	9/25	静岡新聞	東部版	服飾品や生活雑貨、菓子など100種類 6施設の手作り品販売 27日まで富士で「ほっこり市」	13
⑩	9/30	静岡新聞		障害者支援団体へ18万円を寄付 県労働金庫	13
⑪	10/18	静岡新聞	西部版	色彩豊かな雑貨 福祉応援フェア 浜北区・ぬくもり工房	14
⑫	10/18	静岡新聞	東部版	福祉事業所支援 授産製品を販売 来月29日まで沼津	14
⑬	11/17	静岡新聞		農福連携 マルシェでPR 県庁	14
⑭	11/22	静岡新聞		施設利用者デザインのタオル はごろもフーズ(駿河区) 優待品に	15
⑮	12/5	静岡新聞		障害者アートや福産品魅力PR 県、JR静岡駅北口	15
⑯	12/6	静岡新聞		ヘルプマーク解説 22日にフォーラム オンラインで県	16
⑰	12/15	静岡新聞	西部版	障害者制作のエコバッグ セブンで販売開始 中区の18店舗 就労施設支援プラ削減	16
⑱	12/15	中日新聞	西部版	施設製作エコバッグ 市内コンビニで販売	17
⑲	12/17	静岡新聞		子ども食堂を応援 県労金Xマスプレゼント 県内46団体にお菓子	17
⑳	12/19	静岡新聞		福祉事業所の商品活用 ネットヨタ浜松有玉店 イベント啓発品に	18
㉑	12/27	静岡新聞		県認定「福産品」菓子や草木染並ぶ 葵区、31日まで	18
㉒	12/27	静岡新聞		障害者社会参画へ「農福連携」浜松の福祉施設 農業研修 職員の野菜作り 技術向上	19
㉓	12/27	静岡新聞		自然薯栽培に汗 葵区で農福連携事業	20
㉔	1/7	静岡新聞		障害者 出荷箱組み立て 焼津 イチゴ農家が「農福連携」	20
㉕	1/20	富士ニュース		障害者のアートを展示 25日まで富士信金森島支店	21
—	1/20	岳南朝日新聞社		障害者福祉理解を促し 事業所作品展	—
㉖	2/3	静岡新聞		福産品購買促進へ きょうまでフェア 県庁	22
—	2/3	日本農業新聞		労働力確保へ 農福連携説明 静岡・JA大井川	—
㉗	2/4	静岡新聞		「ふじのくに福産品ブランド」化へ プロから染色技術学ぶ 藤枝の障害福祉事業所 葵区 茶染めポーチ質向上	22
㉘	2/6	静岡新聞		この人 認定NPO法人オールしずおかベストコミュニティの西部センター長を務める 河島美津夫さん(浜北区小松)	23
㉙	2/10	中日新聞		人手不足の農家に助っ人 福祉施設通所者ら「やりがい」	24
—	2/18	日本農業新聞	西部版	広がる農福連携 花桃調製スタート 一静岡県浜松市・樽井農園 かき氷用 イチゴ加工 一静岡・JAしみず	—
㉚	3/3	静岡新聞		【中区】交通安全用の授産品寄贈	24

※新聞社の地域の項目、表示無しは全県版です。 ※記事・画像等は、新聞社・雑誌社の許諾を得て、日付順に転載しています。

No	掲載日	新聞社名	地域	記事見出し	頁
③①	3/5	静岡新聞		パチンコ店で 授産製品提供 県遊技業協同組合	25
③②	3/18	中日新聞		金賞の明かり あす店頭に 県産ヒノキ製、5点限定 特別支援学校磐田見付分校生徒手作り	25
③③	3/21	静岡新聞		駿河区の福祉施設 利用者生け花学ぶ サトウ園芸が教室	26
③④	3/24	静岡新聞		福産品ブランド並ぶ きょうまで駿河区 ポーチやキャンドル	26

広報実績一覧 1) 新聞 -2

■ 静岡県障害者文化芸術活動支援センター みらーと

No	掲載日	新聞社名	地域	記事見出し	頁
③⑤	8/14	静岡新聞		障害者作品 ウェブで鑑賞 県支援センター 絵画や工芸 “美術館” 開設	27
③⑥	11/22	静岡新聞		障害者が描いた建物や果物の絵画 25日まで裾野	28
③⑦	1/28	静岡新聞		障害者の描いた絵画 30点並ぶ 沼津、1日まで	28
③⑧	2/17	静岡新聞	西部版	この人 県障害者文化芸術活動支援センター「みらーと」西部拠点の支援コーディネーターを務める 鈴木結子さん(磐田市)	29
③⑨	3/3	静岡新聞	東部版	ピアノや演劇、工芸 障害者が成果発表 裾野	30
④⑩	3/12	静岡新聞	西部版	知的障害の5人 自由に絵はがき 中区	30
④①	3/14	中日新聞		44人の個性 作品に 浜松で障がい者アート展	31

広報実績一覧 2) 雑誌

No	掲載日	雑誌社名	記事見出し	頁
④②	9/5	Shizuoka Business Report No.1436	企業産業レポート みらーと 令和元年度の活動状況をまとめた『風を創るひとたち2』を発行	32
④③	10/5	Shizuoka Business Report No.1438	企業産業レポート オールしずおかベストコミュニティ 農業と福祉事業所の連携事業を推進	33

広報実績一覧 3) テレビ・ラジオ

No	放送日	媒体	社名	内容
1	12/15	ラジオ	(株)エフエムみしま・かなみ	VOICE CUE ukiuki ワイドももいろクラブ ピタッと！ボイス・キュー 防災情報局ヘルプマークについて
2	12/16	TV	静岡第一テレビ	県労働金庫 こども食堂にクリスマスプレゼント
3	12/21	ラジオ	(株)エフエム 御殿場	富士山 GOGO エフエム Fujiyama sunshine あれこれそれぞれこれなあとヘルプマークについて
4	1/8	TV	浜松ケーブルテレビ(株)	ウィンディニュース さんちよく！ 10：00～ヘルプマークについて
5	2/3	TV	SBS テレビ	18：55～『ORANGE』静岡県庁で福祉事業所の“バレンタインフェア”
6	2/3	TV	第一テレビ	18：33～『news every』バレンタインフェア&農福連携マルシェ 2月2・3日 県庁本館 4F
7	3/15	TV	テレビ静岡	11：19～ チョット！いいタイム 静岡県遊技業協同組合

広報実績 1) 新聞 -1 ■オールしずおかベストコミュニティ

北区福祉施設製布マスク調達 遠州信金使用始める

遠州信用金庫は窓口職員が着用する布マスクを浜松市北区引佐町の社会福祉法人引佐すみれの会「引佐草の根作業所」から調達することを決め、14日、窓口での使用を始めた。障害者支援の一環で県

の委託を受けた認定NPO法人オールしずおかベストコミュニティがコーディネートした。

同作業所は縫製品を得意としている。新型コロナウイルスの感染拡大でマスクが不足したを受け、社会貢献

のために布マスクを製品に追加した。地元ブランド「遠州ガーゼ」を使った鮮やかな色合いと肌触りの良さが特徴的だ。

14日は同信金引佐支店の職員が窓口で同作業所製マスクの使用を始めた。今後、同信金の全支店に広げていくという。

同作業所の田中みさ子施設長は「協力を感謝している。良さを知ってもらい活用してほしい」と意欲的。同信金引佐支店の石塚哲也支店長は「SNSなども活用しながら取り組みを支援し、魅力を発信していきたい」と話した。



利用者手作りした遠州ガーゼのマスク
|| 浜松市北区引佐町

ふじのくに福産品 買って応援しよう

障害のある人が手作りした「ふじのくに福産品」を買ってもらうと、県障害者政策課は一人一品運動を推進している。

六月二十六日まで。
一口三千円からの二コースと「コロナに負けるな！コロナ・ゼロ」として一口五千六百七十

円のもの、計三コースがある。商品の中身はマスクや焼酎、ブックカバーなど。

同課はウェブサイトを拡充し、二百五の事業所と八百八十八製品を掲載。価格帯や地域別に検索しやすくなった。今後は会員制交流サイト(SNS)や動画も活用する。

運動は昨年に続き、二回目。

前回は五百四十九口の申し込みで計約百六十五万円の売り上げがあった。村松正章課長は「事業所も新型コロナウイルスの影響を受けている。支援をしながら、福産品の良さを知ってもらえたら」と呼び掛ける。(県障害者政策課 054(221)2328 (谷口武))

① (令和2年5月17日・静岡新聞 西部版)

② (令和2年5月27日・中日新聞)

※記事にある「ウェブサイト」とは、「ふじのくに福産品WEBカタログ」という名称で、静岡県より委託を受け当法人が運営いたしております。

障害者施設から調達減

県や市町 2億9627万円

19年度

県が27日までに公表した障害者就労施設からの県や市町の物品・役務調達実績によると、2019年度の総額は前年度比2.5%減の2億9627万円だった。市町の調達額は前年度を上回ったが、県と独立行政法人の調達額が下回ったため、総額が減少した。

物品・役務調達は事務用品や日用品、食品などの購入や、印刷、清掃などの業務委託。県は前年度比14%減の5463万円で、目標の6400万円に届か

なかった。県障害者政策課によると、19年度の調達額の減少は、県の各種計画の終了年次で関係冊子やパンフレットの印刷業務の発注が多かった前年度に比べ、発注業務が少なかつたためだという。県は20年度の調達目標を19年度と同じ1億6400万円以上に設定した。各局に「1所属1発注」を呼び掛け、全庁を挙げて障害者就労施設への発注拡大に取り組みとしている。

③ (令和2年5月28日・静岡新聞)

※記事にある「ふじのくに福産品を紹介するウェブサイト」は、「ふじのくに福産品 WEB カタログ」という名称で、静岡県より委託を受け当法人が運営いたしております。

団体名	2019年度(円)	前年度比(%)
県	54,638,310	86.0
岡松	27,811,611	99.8
静浜	56,590,174	102.8
沼熟	12,506,702	101.8
三富	11,862,770	100.2
伊島	7,459,480	100.3
富磐	3,975,669	136.1
伊島	1,098,523	113.7
東田	23,034,275	99.7
土田	11,014,263	100.0
津川	4,211,264	88.8
枝場	9,615,366	77.2
井田	8,764,505	94.2
野西	5,357,020	72.2
豆崎	20,920,567	111.2
川崎	1,754,923	86.9
前	2,063,288	67.3
伊豆	1,892,764	103.5
の	4,380,181	101.2
国	3,510,215	102.0
原	4,309,382	95.9
豆	2,853,207	137.7
津	5,612,116	219.5
伊	958,713	122.3
豆	409,542	120.9
津	23,832	8.5
伊	1,460,771	256.9
豆	181,500	85.8
伊	159,270	93.8
南	1,034,930	117.0
水	1,341,182	112.4
山	2,248,052	55.4
泉	585,365	185.6
山	2,070,858	113.2
田	59,535	51.5
本	374,752	124.5
市	241,306,567	100.6
計	296,272,446	97.5
独立行政法人*	327,569	54.1

*独立行政法人は、県立病院機構、公立大学法人、静岡文化芸術大学の3法人

市部で調達額が多かったのは浜松市の5659万円(前年度比2.8%増)、静岡市の2761万円(0.2%減)、島田市の2303万円(0.3%減)、御殿場市の2092万円(11.2%増)など。町部では長泉町の224万円(44.6%減)が最多だった。(政治部・宮嶋尚徳)

障害者就労施設からの物品・役務調達実績

県は新型コロナウイルス感染症拡大で落ち込んだ県内経済の回復に向けた県産品購入促進策「バイ・シズオカ」の一環で、県内障害福祉サービス事業所の製品「ふじのくに福産品」を積極的に購入するよ

福産品の購入
県が呼び掛け
ウェブサイト拡充

う呼び掛けている。「ふじのくに福産品を紹介するウェブサイト」の掲載を205事業所、888製品に拡充した上で、カテゴリや地域別で検索しやすくした。県職員による「1人1品運動協力隊」

の取り組みや、SNS、動画・ポスターを活用したPRも活発化する。ウェブサイトは「ふじのくに福産品」でキーワード検索できる。問い合わせは県障害者政策課へ電054(221)3619へ。

農福連携窓口開設 情報集約しマッチング

県、静岡市内に



ワンストップ窓口で相談に当たるコーディネーターたち
=25日午前、静岡市葵区

県は25日、担い手不足に悩む農家と雇用を求める障害者をつなぐ「農福連携」を推進するワンストップ窓口を、静岡市葵区の障害者働く幸せ創出センター内に開設した。

窓口業務はNPO法人オールしずおかベストコミュニティに委託。JAグループや農業法人などの求人情報と、福祉事業所やハローワークから寄せられる求職情報を集約し、マッチングを図る。窓口で相談を受けるほ

か、県内に3人のコーディネーターを配置して契約や作業日程の調

整に当たる。障害者の試用期間中は農家の負担を軽減するため1時間につき5千円、上限10万円を助成する。農業と福祉両方の知識を兼ね備え、継続した就労を支援する「農業版ジョブコーチ」も養成する。本年度は農業法人や社会福祉法人関係者ら20人を対象に研修を行い、ジョブコーチとして農業現場に派遣する予定だ。

同NPOの松井昌男支援部長は「福祉事業所が参加しやすくなるように、情報を集約し

てニーズがかみ合うようにしたい」と話す。(経済部・平野慧)

④ (令和2年6月26日・静岡新聞)

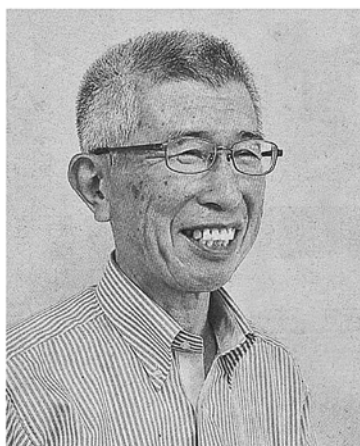
担い手不足に悩む農業者と雇用を求める障害者をつなごうと県が6月に開設した「農福連携」推進のワンストップ窓口で、中部地区を担当する。農業者や福祉事業所などから情報を収集し、マッチングを図る。68歳。牧之原市出身。

—コーディネーターの役割とは。

「農業者や農村地域などの求人情報をもとに現場に出向き、障害のある人が活躍できる場を農業者などと話し合いながら見つけていく。情報は本部の窓口に送り、契約や作業日程の調整にも当たる」

「農福連携」を推進するワンストップ窓口で中部地区担当のコーディネーターに就任した

おいしい まさとし
大石 昌稔さん (静岡市葵区)



この人

—見えてきた課題は。

「障害のある人を雇用するノウハウが農業者側になのが実情。障害の個人差もあり、力を発揮しやすい仕事のイメージがつきにくく、雇いたくても相談をかけたらい部分がある」

—手応えは。

「県職員として、農業技

術支援に約40年間携わった経験がある。面識のある農業者も多く、情報収集に役立つている。農園内の草取りなど、具体的な話もいただいている」

—今後の意気込みを。

「障害のある人が産業の一部を担うことで、農業者の経営発展につなげるのが理想。この事業はまだ始まったばかり。引き続き現場を駆け回り、両者の橋渡し役を担っていきたい」

◇ 農業を学びに来日した中国の研修生と交流を深め、中国旅行が趣味に。
(社会部・池田悠太郎)

⑤ (令和2年7月16日・静岡新聞)

※記事にある「農福連携ワンストップ窓口」は、静岡県より委託を受け当法人が運営いたしております。

障害者「福産品」 購入通じ支援を

きょうまで県庁でフェア

県内の障害福祉サービス事業所で製作された「ふじのくに福産品」をPRするため、県は17日から、ふじのくに福産品サマーフェアを県庁本館で開いている。18日まで。

新型コロナウイルス感染症の影響を受けた事業所を支援するため、県民や県職員へ福産品の購入を呼び掛ける「一人一品運動」の一環。オールしずおかベストコミュニティや

県社会就労センター協議会など6団体が出展した。県内の55事業所が製作した菓子や布マスク、文具など約200品が並ぶ。袋井市のデンマーク牧場福祉会は、アイスクリームやヨーグルトを販売している。

会場には障害者が描いた絵画や、プラスポーツで使う2人乗りの自転車、陸上用の義足、本県ゆかりのプラスポーツ選手のパネルも展示している。

18日の開場時間は午

前10時～午後3時。一般来庁者も利用可能。新型コロナウイルス感染症対策のため、一度に会場に入れる人数を約20人に制限する。



県内各地の障害福祉サービス事業所で製作された福産品を集めたイベント。17日午前、県庁

⑦ (令和2年8月18日・静岡新聞)

※記事にある「一人一品運動」は、静岡県より委託を受け当法人が運営いたしました。



除草作業を行う障害者就労支援事業所の通所者ら
＝静岡市清水区

ミカン園除草作業に汗

障害者就労支援事業所の通所者 農福連携の一環

清水区

静岡市清水区茂畑のミカン園で14、15の両日、障害者就労支援事業所の通所者が除草作業を行った。障害者らに農業の現場で活躍してもらう県の農福連携事業の一環。

ライク(同区)の通所者8人が参加した。地元生産者で青木農園の青木悟代表から作業手順などの指導を受けながら、園地に根を張った雑草を丁寧に取り除いた。2日間でミカン園約1畝の一角の除草を済ませた。

ミカン栽培では管理や収穫などの作業で人手確保が課題となっていて、県から事業を受託するNPO法人が障害者の職域拡大を目指す障害者施設と農業者とのマッチングを進めている。

ライクの担当は「補助作業できるように役立つ程度であれば、ていた」と話した。
(清水支局・栗原広樹)

⑧ (令和2年9月16日・静岡新聞)

※記事にある「県から事業を受託するNPO法人」とは、当法人「NPO法人オールしずおかベストコミュニティ」の事で、静岡県から委託を受け「農福連携ワンストップ窓口」を運営いたしております。

服飾品や生活雑貨、菓子など100種類

手作りの雑貨などが並ぶほっこり市

＝富士市の四季彩堂富士吉原店



富士市社会福祉協議会が運営する障害者就労継続支援B型事業所6施設の製品を集めた「ふじのふもとのほっこり市」が24日、同市今泉の雑貨店「四季彩堂富士吉原店」で始まった。27日まで。

6施設の手作り品販売

27日まで富士で「ほっこり市」

新型コロナウイルス感染症拡大でイベントが中止になり、販売機会を失った手作り製品の販売場所を確保しようと認定NPO法人「オールしずおかベストコミュニティ」が協力を求め、同店が出入り口付近の場所を無償提供して初開催した。

「まつぼっくり」（大野新田）のクッキーとマスク、マスクケースのセットや、「ひめな」（比奈）のエコバッグなど、各施設の得意分野を生かし、時節に合わせた服飾品や生活雑貨、菓子など約100

種類が並び、手作り品を好む同店の来店客が見入っている。

まつぼっくりの中村千恵所長は「注文が激減し、各施設が工夫を重ねている。販売場所があると利用者の励みになる。手作りの品でほっこりして」と話した。

（富士支局・青島英治）

⑨（令和2年9月25日・静岡新聞 東部版）

鈴木専務理事に目録を手渡す県労働金庫の古川理事長（右）＝静岡市葵区

静岡市葵区で開いた贈呈式で、古川理事長が「働く人皆が豊かになる社会を目指す」とあいさつし、オールし



障害者支援団体へ18万円を寄付

県労働金庫

県労働金庫（古川正明理事長）が29日、障害者の就労支援などを行う「オールしずおかベストコミュニティ」に18万2780円を寄付した。寄付金は無担保ローン「役立宣言」の2019年度の利用1件あたり20円を拠出した。

ずおかの鈴木良夫専務理事に目録を手渡した。鈴木専務理事は「障害者の自立支援に活用させていただきます」と感謝した。

⑩（令和2年9月30日・静岡新聞）

色彩豊かな雑貨
福祉応援フェア
浜北区・ぬくもり工房
県内の障害者福祉サ
ービス事業所の工賃向
上を支援する認定NP
O法人オールしずおか
ベストコミュニティは
11月30日まで、県西部
の事業所の製品を売る
「福祉応援フェア」を
浜松市浜北区のぬくも
り工房で開いている。



同工房は、遠州綿細
の製品を取り扱う織物
の卸販売を行っている
て、地域貢献の一環で
工房の一面を会場とし
て提供した。

障害者福祉サー
ビス事業所の利
用者が作った雑
貨は浜松市浜北
区のぬくもり工
房
水曜休み。
10月30日ま
での前半と31
日以降の後半
で出品事業所
を交代する。
前後半ともパ
ックや小物入れなど
の雑貨約400点ず
つが並ぶ。事業所の利
用者たちが遠州綿細
(めんつむぎ)を使っ
て作った色彩豊かな品
々に注目が集まってい
る。

⑪ (令和2年10月18日・静岡新聞 西部版)

福祉事業所支援
授産製品を販売
来月29日まで沼津
認定NPO法人オー
ルしずおかベストコミ
ュニティは11月29日ま
で、障害福祉事業所の
製品の展示販売会を沼
津市大手町のイラド
e内にあるギャラリ
「Ms sentiments
(エムズ・セ
ンチメンツ)」
で開いている。



障害者が手作りした製品の展示
販売会は沼津市大手町

10月30日までは函南
町のわかき共同作
業所、31日から11月
29日までは伊豆の国
市のもくせい苑の授産
製品を展示販売してい
る。

「コロナ禍で
イベントが中
止となり、授
産製品の販売
機会が減った
福祉事業所を
支援しようと
企画した。施
設利用者が手
作りしたマス
クやポーチ、
廃油を再利用
したせっけんなどが並
んだ。来場者は製品を
手に取ったり、施設を
紹介する説明文を読ん
だりしながら買い物
を楽しんだ。

⑫ (令和2年10月18日・静岡新聞 東部版)

農福連携 マルシェでPR 県庁
県は16日、障害者の
工賃向上と一般就労
大に向けた農業分野と
の連携「農福連携」を
PRするマルシェを県
庁で開いた。県内約10
カ所の福祉事業所がブ
ースを並べ、事業所で
栽培した農産物や加工
品を販売した。
リーフレタスやシイ
タケ、オリーブオイル、
地元野菜や果物を使
ったジャム、乳製品な
ど50種類以上の自慢の
品が並んだ。県庁職員
や来場者が会場を訪
れ、商品のこだわりを
聞きながら買い物を
楽しんだ。
県は21日午前10時
午後2時、函南町の伊
豆ゲートウェイ函南で
もマルシェを開く予定
で、4事業所が参加す
るといふ。障害者政策



県内福祉事業所の農産物などを紹介したマルシェ
=16日午後、県庁

⑬ (令和2年11月17日・静岡新聞)

※記事にある「農福連携」をPRするマルシは、
静岡県より委託を受けて農福連携支援事業の一環で
当法人が運営して開催しました。

課の担当者は「(農福
連携は)福祉の視点で
は障害者の活躍の幅が
広がり、農業分野の担
い手確保にもつなが
る。今後も認知度向上
に力を入れたい」と話
した。

施設利用者デザインのとタオル
はごろもフーズ(駿河区)優待品に

NPO法人障害者活動支援団体げんきむら(藤枝市)は20日、施設利用者が製作した干支(えと)ハンドタオルを静岡市駿河区のはごろもフーズに届けた。障害福祉事業所と企業を結びつける県の「企業CSR連携促進事業」の一環で、同社は株主優待品として活用する。

納品したのは、来年の干支の丑(うし)のデザインをあしらった約2500枚。デザインが加わると喜んだ。

波平佳也乃さん(20)が同社を訪れ、香田賢治総務部長に手渡した。波平さんは「牛の周りに雲を描き、空が広がる牧場の雰囲気表現した」と説明。香田部長は「(株主優待品の)自社商品の詰め合わせに、かわいくてほっとするデザインが加わる」と喜んだ。

はごろもフーズにハンドタオルを届ける波平さん(右端)＝静岡市駿河区

⑭ (令和2年11月22日・静岡新聞)

※記事にある「NPO 法人障害者活動支援団体 げんきむら」は当法人の会員様で、当法人が静岡県より委託を受け「企業 CSR 連携促進事業」の一環で、障害福祉事業所と企業「はごろもフーズ」様を結び付けました。

障害者アートや福産品魅力PR
県、JR静岡駅北口

県は障害者週間(3月9日)に合わせ、障害者アートや福祉事業所の製品「福産品」などの魅力をPRする展示をJR静岡駅北口地下広場で実施している。6日まで。

県内の障害者が描いた絵画9点と、パラサイクリングで使用される2人乗りの「タンデム自転車」、ヘルプマークへの理解を求めるポスターなどが並ぶ。県内の福祉事業所が製作したマグネットなども配布している。

障害者週間の期間中、県内7カ所の健康福祉センターでも、庁舎などで啓発品の展示や配布を行う。

障害者アートやタンデム自転車を紹介する展示
＝4日午後、JR静岡駅北口地下広場

⑮ (令和2年12月5日・静岡新聞)

※記事にある「障害者アートや福祉事業所の製品「福産品」などの魅力をPRする展示」は、静岡県より委託を受け当法人が運営しました。

ヘルプマーク解説
22日にフォーラム
オンラインで県
県は22日午後2時か
ら、外見では分からな
くても援助や配慮を必
要としている人のため
につくられた「ヘルプ
マーク」を周知するフ
ォーラムをオンライン
開催する。

「Zoom(ズーム)」
で、考案者で元都議の
山加朱美さんが、発案
の背景やマークを身に
付けている人を見かけ
た時に求められる行動
などを解説する。
問い合わせは、事業
を委託しているNPO
法人オールしずおかべ
ストコミュニティへ電
054(251)35
15へ。

⑩(令和2年12月6日・静岡新聞)



障害者が制作したエコバッグを手にする関係者
＝浜松市中区のセブンイレブン浜松野口町店

中区の18店舗

就労施設支援 プラ削減

エコバッグの大きさは、縦17センチ、横23・5センチ、高さ19・5センチで、セブンイレブンの弁当が真つすぐ入るマチの広さが特徴という。南区のワークショップくるみと、北区の多機能型事業所だんだん、引佐草の根作業所、夢ワークたちばなの4施設の利用者が制作している。黒色帆布(税込み500円)と遠州綿紬(同1200円)の2種類を用意した。商品にはプラスチックごみ削減を呼び掛ける市からのメッセージや制作事業所名を記したカードを同封した。セブンの担当者は「男性にも使いやすいシッ

浜松市内の障害者就労施設が制作したオリジナルエコバッグの販売が14日、中区のセブンイレブン18店舗で始まった。市とセブンイレブン・ジャパンの「地方創生に関する包括連携協定」に基づく取り組みで、施設の支援と、プラスチックごみの削減が狙い。

障害者制作のエコバッグ

セブンで販売開始

クなデザインに仕上げてくれた。より多くの人に使ってもらい、レジ袋の使用を削減できれば」と話す。
(浜松総局・土屋咲花)

⑪(令和2年12月15日・静岡新聞 西部版)

※記事にある「ワークショップくるみ、多機能事業所だんだん、引佐草の根作業所、夢ワークたちばな」は、当法人の会員様です。当法人が、上記4事業所へエコバッグ制作を仲介しました。



施設製作エコバッグ
市内コンビニで販売
環境汚染の原因にもなっ
ているプラスチック製買
物袋（レジ袋）の削減を
目指し、浜松市内の障害者
就労施設で製作されたエコ
バッグの販売が十四日、
市内のセブンイレブン
十八店舗で一斉に始ま
った。

エコバッグ（高さ十九
センチ、横二十二センチ、
奥行き十七センチ）は、
黒無地（五百円）と遠州
綿紬（千二百円）の二種
類。来年六月ごろまで販
売する。
セブンイレブン・ジャ
パン（東京都）によると、
二〇三〇年までにレジ袋
の使用ゼロを目指す同社
が市とNPO法人「オールし
ずおかベストコミュニティ」
などと呼び掛けて販売が
決まったという。
浜松野口町店のオーナー
内山雅尋さんは「プラスチ
ックごみの流出による海
洋汚染は心配。エコバッグ
がどんどん普及していけ
ばうれしい」と話してい
た。（佐藤裕介）

⑱（令和2年12月15日・中日新聞 西部版）

子ども食堂を応援 県労金 X マスプレゼント 県内46団体にお菓子

県労働金庫は16日ま
でに、子ども食堂を運
営する46団体に菓子の
詰め合わせセット「ク
リスマスボックス（B
OX）」約2千個とク
リアファイルを贈った。
新型コロナウイルスの感
染拡大で活動制約を受
ける中、運営団体や未
来を担う子どもたちを
応援しようと企画した。
県によると、県内の
子ども食堂97カ所のう
ち、新型コロナ禍の影
響で約7割が活動を縮
小、中止した。地域イ
ベントや学校行事など
の自粛も続いており、



同金庫は子どもたちの
笑顔を増やしたいと
「サプライズ」を考え
た。各団体からBOX
の受け取り希望を募
り、中身は就労継続支
援事業所が製造したク
ッキーやマドレーヌな
どをそろえた。

同日、静岡市葵区の
県勤労者総合会館で贈
呈式が行われ、古川正
明理事長が「しずおか
キッズカフェ（同市葵
区）の小林タバサ代表
にクリスマスBOXを
手渡した。小林代表は
「コロナ禍で人と人の
距離が離れている。温
かい支援が子どもや保

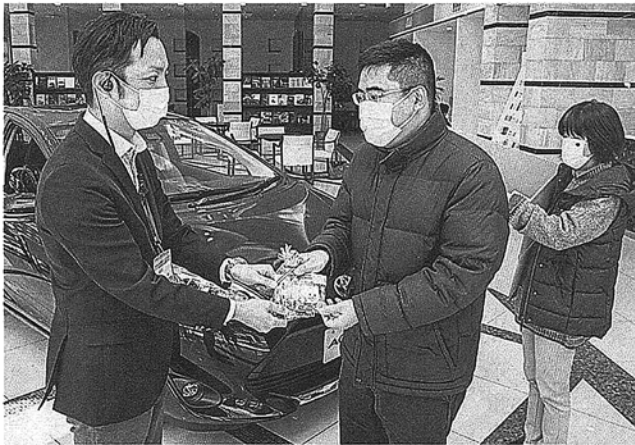
クリスマスボックスを手渡す古川理事長（右）と
小林代表＝静岡市葵区の県勤労者総合会館

⑲（令和2年12月17日・静岡新聞）

※記事にある「静岡県労働金庫」は、当法人の会員様です。
静岡県労働金庫様より依頼を受け、記事にある「就労継続
支援事業所が製造したクッキーやマドレーヌなど」のお菓
子を、当法人が約2000個手配し納品いたしました。

福祉事業所の商品活用

ネットヨタ
浜松有玉店 イベント啓発品に



田島店長（左）にクッキーを手渡す内藤さん（中央）
＝浜松市東区のネットヨタ浜松有玉店

浜松市東区のネットヨタ業所「工房いもねこ」トヨタ浜松有玉店のイベント（同区）のクッキーが、ネットヨタ浜松有玉店の採用され、同事業所のイベント啓発品に福祉事業所採用され、同事業所の

スタッフらが18日、同店を訪れてクッキー200個を届けた。

田島一紀店長が「既製品ではなく、気持ちのこもった物を来店客に贈りたい」と商品を探していたときに、N



イベント来場者に配られる猫の絵柄のクッキー

PO法人オールしずおかベストコミュニティの河島美津夫さんから同事業所の手作り菓子を紹介され、一生懸命に作っていることに感銘を受け採用した。

クッキーには猫の顔と肉球が描かれ、かわいいうち記念品になった。19、20日に同店で開かれる「年末前に最後のカーチェック」の来場者に先着順で贈られる。

田島店長にクッキーを手渡した佐久間久美子さんと内藤友樹さんは「コロナ禍で事業所製菓を販売できる場所が減っている中、こうして大量に購入してもらえ助かる」と話した。

② (令和2年12月19日・静岡新聞 西部版)



福祉事業所で作られた工芸品や菓子などが並ぶ展示会
＝静岡市葵区

の静岡伊勢丹催事場で始めた。31日まで。

県が品質の高さをPRするため「ふじのくに福産品ブランド」に認定した菓子やそうめん、草木染など16種類の商品が並ぶ。

伊勢丹の担当者は「県産の材料を使い、パッケージにも工夫を凝らした商品を見てももらえれば」と話した。

県認定「福産品」菓子や草木染並ぶ
葵区、31日まで
NPO法人オールしずおかベストコミュニティは26日、障害のある人が働く県内福祉事業所で作られた商品の展示会を、静岡市葵区

② (令和2年12月27日・静岡新聞)



講師の宮本和典さん（手前左）から農業の技術指導を受けるNPO法人の職員＝浜松市西区

障害者社会参画へ「農福連携」

浜松の福祉施設 農業研修



障害者施設を運営するNPO法人「えんしゅう生活支援net」（浜松市中区）が、農業の専門指導者を招いた職員研修をスタートした。障害者が農業分野で社会参画するため、障害者と一緒に野

職員の野菜作り 技術向上

菜を作る職員の技術力を高める。専門指導員を務めるのは西区で肥料会社を経営し、施肥技術マイスターなどの資格を持つ宮本和典さん(41)。施設で指導に当たる職員はリハビリを支援する作業療法士などの資格は持っているが、農業には精通していない。このため同NPOが県の支援事業を活用し、10月から講師として招いた。

宮本さんの指導は畑づくりや農機具操作などの基礎的な実地研修が中心で、土壌を科学的に分析して肥料の使い方も具体的に助言する。同NPOは、既に通所施設の利用者7人が西区の畑で葉物や根菜類などを作り、同NPOが経営する中区のカフェで料理に使ったり、販売したりしている。宮本さんは「収穫期をできるだけ長くすれば、店で利用しやすくなる。計画的に作付けすることが大切」と呼び掛ける。心身にさまざまな障害のある利用者が農作業に従事するため、収穫量は多くないが、キャベツやタマネギ、サンチュなど10種類以上を栽培している。将来的には化学肥料や農薬を使わない有機栽培を目指すという。建木健康理事長(48)は「種類と生産量を増やし、よりよい野菜を提供できるように頑張りたい」と意気込んでいる。

(浜松総局・杉山諭)

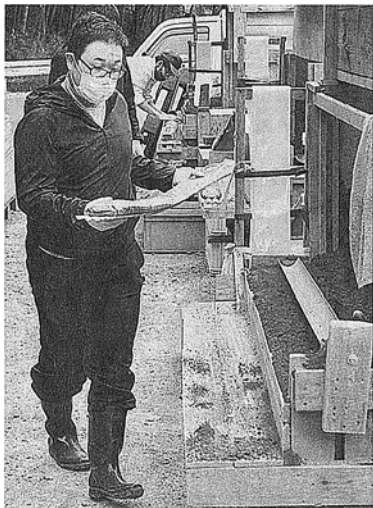
② (令和2年12月27日・静岡新聞)

※記事にある「県の支援事業」は、当法人が静岡県より委託を受けて運営する「農福連携支援事業」であり、当法人が両者をコーディネート致しました。

自然薯栽培に汗

葵区で農福連携事業

静岡市葵区の障害福祉事業所「ワークセンターりんどう」の利用者が24日、自然薯（じねんじよ）栽培に使う



土入れ作業に取り組み「ワークセンターりんどう」の利用者。静岡市葵区の藤田農園

袋への土入れ作業を同区の藤田農園で行った。担い手不足に悩む農家と雇用を求める障害者をつなぐ県の農福連携事業として、認

定NPO法人「オールしずおかベストコミュニティ」が両者を結

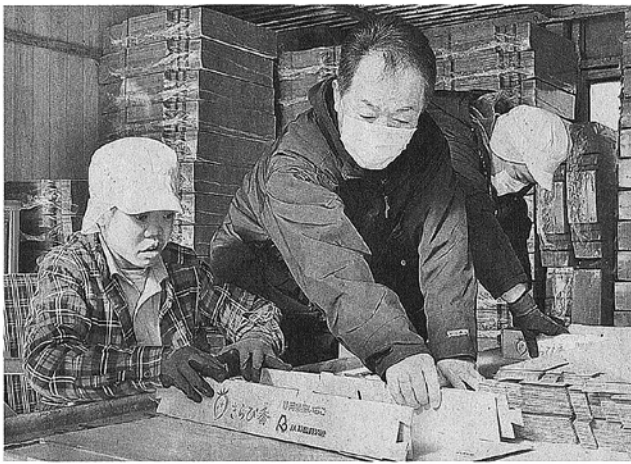
んだ。参加した3人は、長さ約1メートルの細長い袋に赤土を丁寧に詰める作業に汗を流した。作業を見守ったワークセンターりんどうの提橋稚子さん(57)は「彼らが将来自立できるように、いろいろな仕事に取り組んでほしい」と話した。

② (令和2年12月27日・静岡新聞)

障害者 出荷箱組み立て

焼津 イチゴ農家が「農福連携」

焼津市高瀬田の障害者就労支援施設「焼津の空と大地」との利用者は6日、同市飯淵のイチゴ農場「シックスベリーファーマーズ松田農園」で、イチゴ出荷箱の組み立て作業に取り組んだ。障害者の社会参加と農業の動きを推進する「農福連携」の一環。同市在住の20、30代の施設利用者6人が参加し、出荷箱約600個を組み立てた。施設職員に教わりながら、真剣な表情で取り組んだ。施設の生活支援員久保嶋奏美さんは「新しい環境下での作業。自分の得意なことに気付くなど発見もあったようだ」と話した。イチゴの出荷シーズンの5月ごろまで週1回ペースで同農園を訪れて作業する。



出荷箱を組み立てる福祉施設利用者(左)

焼津市の松田農園

松田農園が、県の助成事業「お試しノウフク」(オールしずおか)

ベストコミュニティ(焼津支局・尾原崇也)を受託して活用した。市内では松田肇同農園代表の指導を受けて就農したイチゴ農家も農福連携に取り組んでいる。

②④ (令和3年1月7日・静岡新聞)

※記事にある「焼津の空と大地」とは、当法人の会員様です。また、記事にある「県の助成事業「お試しノウフク」」は、当法人が静岡県より委託を受けて運営しました。

障害者のアートを展示

25日まで富士信金森島支店



絵画が並ぶ展示スペース

NPO法人オールしずおかベストコミュニティは18日から、富士市内の障害者福祉事業所の利用者の絵画や陶芸などを集めた作品展を、富士信用金庫森島支店（森島）で開いている。土・日曜を除く25日（月）まで。午前



富士見学園による木工作品

9時～午後3時。福祉事業所の利用者が制作したアート作品の発表の場の創出を目的に同法人が毎年開催。同庫が地域貢献活



自主製品のトイレ紙なども並べられた

動の一環として協力し、市内の支店にある展示スペースを提供している。今年は▽富士市立くすのき学園▽スマイル

ベリーファーム▽県立富士見学園▽ひめな▽地域活動支援センターアップルハウスが参加。作品以外にも自主製品を展示している。

このうち富士見学園は、学校名とさまざまな動物を削り出した壁面装飾や今年の干支（えと）である丑（うし）の置物などを披露。スマイルベリーファームは樹木をモチーフとした絵を展示している。展示スペースでは各施設の取り組みや利用者様を紹介するパネルも並べている。同NPOでは「个性的で温かな気持ちにさせてくれる作品が多く集まった。来店者の方に見てもらい、市内の福祉事業所の活動や障害者への理解が深まるきっかけになれば」と来店を呼び掛けている。



福祉事業所の製品が並んだ販売会＝2日午前、県庁

福産品購買促進へ
きよつまでフェア

県庁

障害のある人が働く
県内の福祉事業所の
製品「ふじのくに福産
品」の購入を呼び掛
ける県の「バレンタイ
ンフェア&農福連携
マルシェ」が2日、県
庁で始まった。3日ま
で。

チョコレートやシフ
オンケーキなど、バレ
ンタインに合わせた菓
子を中心に、約50カ所
の福祉事業所から15
0ほどの製品が集まっ
た。福祉事業所が手掛
けた高級チョコレート
や焼き芋が並ぶ。地元
農産物の加工品や、福
祉事業所利用者が農作
業を担う「農福連携」
の取り組みで収穫した
ミカンも販売され、県
職員や来庁者が買い物
に訪れた。
3日は午前10時～午
後3時。新型コロナウイルス
感染対策のため、会場入り口で検温
を実施している。

②⑥ (令和3年2月3日・静岡新聞)

※記事にある「バレンタインフェア&農福連携マルシェ」は、
当法人が静岡県より委託を受けて運営いたしました。

「ふじのくに福産品ブランド」化へ

プロから染色技術学ぶ

県が授産品の販路拡大や障害者の賃金向上を図る「ふじのくに福産品ブランド」認定を目指して商品改良を続ける藤枝市の障害福祉事業所「就労継続支援リカバリーB型」の利用者が3日、静岡市葵区の鷺巣染物店で染色技術を学んだ。同事業所が生産・販売する茶染めポーチの型染めに取り組んだ。

藤枝の障害福祉事業所



型染めに取り組む事業所の利用者山本さん(右)
＝静岡市葵区の鷺巣染物店

葵区 茶染めポーチ 質向上

同事業所は商品の質向上のために、昨年の12月から指導を受けている。利用者の山本康介さん(19)が同店を訪れ、茶の製造工程で出る廃棄物を染料にした「茶染め」の生地に抜染手法を使って茶葉柄を入れた。山本さんは「やり方を覚えてきたので、作業が楽しい」と話した。
出来上がったポーチは藤枝市岡部町の国道1号沿いの「道の駅宇津ノ谷峠」などで販売する予定。
(社会部・太田達也)

②⑦ (令和3年2月4日・静岡新聞)

※記事にある「ふじのくに福産品ブランド」は、当法人が静岡県より委託を受け運営し、また両者をコーディネートしました。

福祉事業所の運営や障害者の就職を支援するNPO法人へ2009年に入り、13年に西部地区センター長に。企業での営業やコンビニオナー時代の接客経験を生かし、福祉事業所の下請け受注や生産する「福産品」の販路拡大へ県西部の企業や店舗を回る。68歳。

― 仕事の内容は。

「事業所を利用する人や対応可能な作業、新しい福産品などを調べ、企業や店舗で紹介、PRする。企業のニーズも聞いて回るなど両者の調整役も務める」

― 仕事を通じた発見は。

「就職直後、事業所を回

認定NPO法人オールしずおかベストコミュニティの西部地区センター長を務める

かわしま みつお
河 美津夫 さん (浜北区小松)

この人



― 見てきたのは、利用者が無駄話もせず一生懸命に作業している姿。障害があるというだけで、仕事の内容や仕事に対する思い、真剣さは自分たちと一緒に変わらないと気づかされた」

― 大変なところは。

「昔は『障害者が作ったもの』と福産品に懐疑的な

企業が多かった。認識を変えるために縫製や包装、デザインなどをプロに指導してもらおうようにして技術を向上させてきた。今では企業の認識も変わり、社会貢献も兼ねて事業所に下請けを発注する企業も増えた」

― 今後の活動の展望は。

「現在、約70の事業所を2人で回っている。人員を増やして事業所の要望に細かく対応できるようにしたい。プロを招いた講習、研修会ももっと開きたい」

◇ 国内旅行が大好き。今は行けなくなり悲しい。
(浜松総局・中井公一)

⑳ (令和3年2月6日・静岡新聞 西部版)

人出不足の農家に助っ人 福祉施設通所者ら「やりがい」



ハナモモの枝を1本ずつはさみで整える「アグリッシュ西丘」の通所者＝浜松市北区細江町で

人手不足に悩む農家と障害者の雇用増を目指す福祉事業所を結ぶ「農福連携事業」が九日、浜松市内で始まった。ハナモモ農家樽井徹さん(五七)＝北区細江町＝の農園を、障害者福祉事業

所「アグリッシュ西丘」(中区西丘町)の通所者五人が作業員として訪れ、収穫したハナモモの枝をサイズ別にそろえて束ねる作業に取り組んだ。

県の助成事業で、「NPO法人オールしずおかベストコミュニティ」(静岡市葵区)とJ.Aとびあ浜松が仲介した。通所者に作業の一部を委ねた樽井さんは「いい関係を築いていきたい。ハナモモの後は、ミカン園の整備に協力してもらいたいと考えている」と話した。

通所者の村松幹晋さん(四七)は「最初は緊張したが、すぐにできるようになった。やりがいがある」と楽しそうに手を動かしていた。(武藤康弘)

⑳ (令和3年2月10日・中日新聞)

中区 交通安全用の授産品寄贈

浜松市中区の3カ所の福祉事業所が1日、利用者の授産製品を交通安全啓発に役立ててもらおうと、県交通安全協会浜松中央地区支部に寄贈した＝写真＝。

贈ったのはウィズ蛸塚のミニレター、くる手作り授産品！



み作業所のしおりと手すきはがき、つばめ創社のポケットティッシュカバー。障害者の就労を支援する認定NPO法人オールしずおかベストコミュニティが交通安全用の授産品の寄贈を企画した。

浜松中央署で贈呈式が開かれ、ウィズ蛸塚の関係者らから製品を受け取った同地区支部の中村嘉宏支部長は「悲惨な交通事故が1件でも減るよう有効に活用したい」と感謝した。

㉑ (令和3年3月3日・静岡新聞 西部版)

パチンコ店で授産製品を提供
 県遊技業協同組合
 県遊技業協同組合(富田直樹理事長)がこのほど、県内の障害者福祉施設から毎年購入している授産品を、加盟する約250のパチンコ店で景品として提供する恒例の取り組みを始めた。

タオルハンカチやマスク、トイレトペーパーなど、審査で選ばれた15授産所の計20製品5万6100点(約500万円)を用意した。

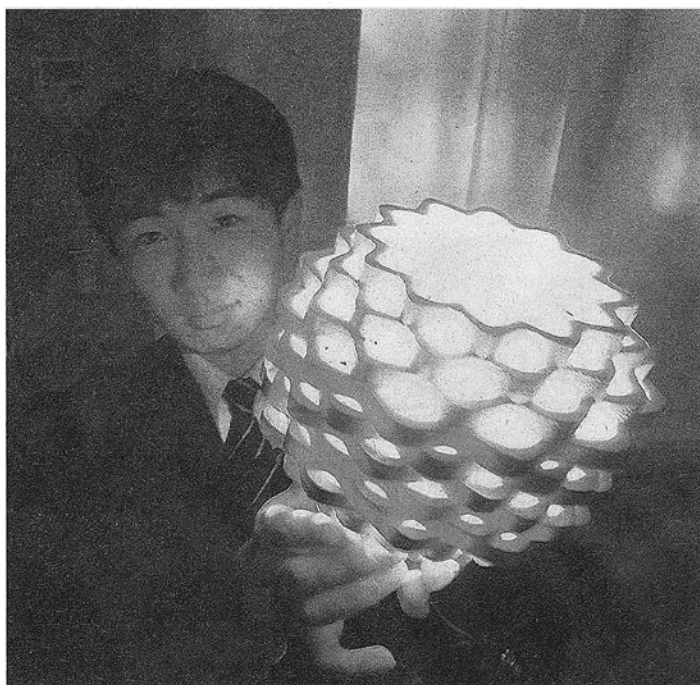
障害者の自立支援と授産製品の販路拡大のために、2000年度から始まった活動。静岡市葵区の店舗では製

品の説明やキャンペーン内容などとともに、景品を紹介している。

③(令和3年3月5日・静岡新聞)

※記事にある「県遊技業共同組合」様には、当法人がコーディネートし、記事にある「授産品」(授産製品)を障害福祉事業所からご購入いただきました。

金賞の明かり あす店頭



県産ヒノキで作ったウッドランプ=磐田市で

磐田市見付の袋井特別支援学校見付分校のクラフト班の生徒が手作りしたウッドランプが十九日から、市内の商業施設「ららぽーと磐田」内の雑貨店「クラブズルーム」で限定販売される。

ランプは県産ヒノキが材料。直径数センチから十七センチ、厚さ八ミリの板十三枚を使い、周囲を電動糸の波の模様で切り抜き、球状になるように重ねる。止まっているミラーボールのように明かりが漏れ、中心部に挿えた白熱灯の柔らかな光と相まって落ち着

県産ヒノキ製、5点限定

く雰囲気漂わせる。授産製品を対象にした「一九年度の「ふじのくにソーシャル・グッズ・コンテスト」の特別支援学校部門で、最高の金賞を受賞している。市の仲介で、授産製品の販売を考えていた同店を運営する「ショールビー」(浜松市東区)が「丁寧に作られていて完成度も高い。光と影を利用したインテリア用品にもなる」として販売を快諾した。

今回は四月二日まで五点を限定販売。価格は一個三千円。(宮沢輝明)

特別支援校磐田見付分校生手作り

③(令和3年3月18日・中日新聞)

※記事にある「ふじのくにソーシャル・グッズ・コンテスト」は、当法人が運営しました。



サトウ園芸が開催したフラワーアレンジメント教室＝静岡市駿河区の「ありんこの里」

駿河区の福祉施設利用者生け花学ぶ
サトウ園芸が教室
サトウ園芸（静岡市

葵区）は18日、視覚障害者支援施設「ありんこの里」（同市駿河区）でフラワーアレンジメント教室を開催した。障害福祉事業所と企業を結ぶ県の「企業CSR連携促進事業」の一環で、参加者らは花の魅力を満喫した。店長の佐藤智昭さん（45）が施設利用者一人一人に花の生け方を丁寧に指導した。利用者らは集中した面もちで

色とりどりのアレンジメントに取り組み、できあがった作品を見せ合って楽しんだ。中山真季さん（46）＝葵区＝は「きれいな花を生けていると気持ちがいすつきりしてくる。本当に楽しかった」と笑顔を見せた。

③（令和3年3月21日・静岡新聞）

※記事にある「ありんこの里」は当法人の会員様です。
記事にある「企業CSR連携促進事業」は、当法人が静岡県より委託を受けて運営し、障害福祉事業所と「サトウ園芸」様を結びつけました。

福産品ブランド 並ぶ

きょうまで駿河区
ポーチやキャンドル

県内の障害福祉サービス事業所で製作された「ふじのくに福産品」をPRするため、県は23日から、「ふじのくに福産品ブランド市」（NPO法人オールしずおかベストコミュニティ運営）を静岡市駿河区のイトーヨーカドー静岡店で開いている。24日まで。県民や県職員へ「福産品」の購入を呼び掛



県内各地の障害福祉サービス事業所で製作された「福産品」を並べたイベント＝静岡市駿河区のイトーヨーカドー静岡店

ける「一人一品運動」の一環。特に優れた製品である「ふじのくに福産品ブランド」の本年度認定商品10点を中心に、事業所9団体が出品した計約30点が並ぶ。藤枝茶で染めた深みのある色合いが特徴のポーチや菊川産のブル時。

「べリーを使用したジヤム、ほのかにヒノキの香りが漂う富士山の形をしたキャンドルなど、魅力的な製品が数多く販売されている。同店1階西口エントランスで開催されている。24日の開場時間は午前10時～午後5時。

④（令和3年3月24日・静岡新聞）

広報実績 1) 新聞 -2 ■静岡県障害者文化芸術活動支援センター「みらーと」

県障害者文化芸術活動支援センター「みらーと」はこのほど、県内の障害者アーティストや作品をウェブサイトで紹介する「みらーとウェブ美術館 風を創るひとたち」を開設した。新型コロナウイルスの感染拡大に伴い

例年実施している展示会などのイベントが中止となる中、障害者が手掛ける芸術の鑑賞機会を創出した。ウェブサイトでは絵画や工芸、立体などジャンル別に作品を紹介するほか、県内を8地域に分けて芸術家を検

索する機能も用意。障害者の作品をデータ化して一覧管理する機能もあるという。同センターの支援コーディネーター田代大輔さん(51)は「障害者の芸術活動を新たに発掘する機会にしてほしい」と期待を込めた。

障害者作品 ウェブで鑑賞

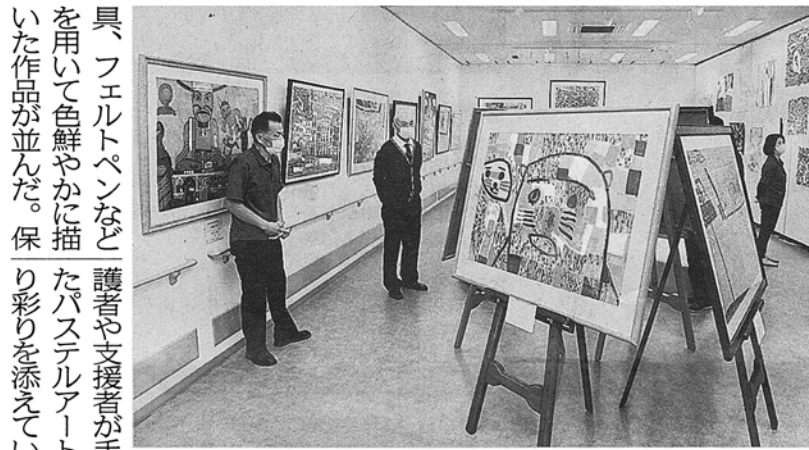
県支援センター 絵画や工芸`美術館、開設



開設した「ウェブ美術館」を紹介する田代さん
＝静岡市葵区

③ (令和2年8月14日・静岡新聞)

障害者が描いた
建物や果物の絵画
25日まで裾野
沼津市の県障害者文
化芸術活動支援センタ
ー「みら」と「東部拠
点」は25日まで、県東部
地区の障害者の絵画作
品を集めた展示会を裾
野市生涯学習センター
で開いている。
富岳会（御殿場市）
とみはらしの里（三島
市）、悠雲寮（長泉町）
の3福祉事業所の利用
者が絵画約40点を出品
した。建物や果物、魚
などをクレヨンや絵の



具、フェルトペンなど
を用いて色鮮やかに描
いた作品が並んだ。保
護者や支援者が手掛け
たパステルアートもあ
り彩りを添えている。

障害者が手掛けた絵画が並ぶ展示会

＝裾野市生涯学習センター

③⑥（令和2年11月22日・静岡新聞）



障害者が手掛けた絵画が並ぶ展示会

＝沼津市のイシバシプラザ

障害者の描いた
絵画30点並ぶ
沼津、1日まで
県障害者文化芸術活
動支援センター「みら
」と「は27日、県内の
障害者の絵画作品を集
めた展示会「風を創る
ひとたち展」を沼津市
のイシバシプラザで始
めた。2月1日まで。

富岳会（御殿場市）
と見晴学園（三島市）、
明光会（静岡市）、草
笛の会（菊川市）の4
福祉事業所の施設利用
者が絵画約30点を出品
した。魚や人物、建物
などをクレヨンや絵の
具を使って描いた。ど
の作品も色彩豊かで買

③⑦（令和3年1月28日・静岡新聞）

い物客らの目を引いて
いる。

大阪の大学で舞台美術を学び、舞台、テレビ業界での社会人経験を経て、浜松市中区の静岡文化芸術大学で空間デザインを学んだ。昨年からは「みらーと」を運営するNPO法人に就職し、県西部担当として、一人で業務をこなす。30歳。

―活動内容は。

「施設や企業などに障害がある作家の絵画作品などを紹介して、発表する場を提供してもらう。福祉事業所を回って作家の発掘も行う。事業所に画材を持ち込み、利用者に作品作りに触れてもらうオープンアトリエという活動も行っている」

県障害者文化芸術活動支援センター「みらーと」
西部拠点の支援コーディネーターを務める

すずき ゆいこ
鈴木 結子 さん (磐田市)

この人



―就職のきっかけは。

「大学院の授業の中で、障害者アートや舞台を目にする機会があり興味を持った。関心がある分野で仕事ができる点と地元で芸術にふれながら働ける点を魅力的に感じ、申し込んだ」

―仕事の面白さは。

「いろいろな作風の作家に出会えるところ。担当は私一人なので責任があり大変だが、いろんなことを自分の思うように形にしている点も楽しい」

―今後の活動の展開は。

「事業所の利用者と一緒に舞台作品を作るなど自分が学んできたことを生かしたい。文芸大には、作品展の企画やマネジメントについて学ぶコースがあり、その学生に現場を体験する機会も提供していきたい」

◇ 趣味は舞台鑑賞。今はなかなか行けず、つらい。
(浜松総局・中井公二)

ピアノや演劇、工芸
障害者が成果発表

裾野

障害者の支援活動を
進めるNPO法人「オ
ールしずおかベストコ
ミュニティ」は28日、
障害者文化芸術発表会
を裾野市生涯学習セン
ターで開いた。

県東部地域で音楽や
演劇、工芸などの活動
に臨む9組が舞台上に登
場して、練習の成果を
発揮した。全盲で10年
以上ピアノの練習を続
け、学校などで演奏し
ている若林諄さん(28)
は、ピアノ教師の五道
素子さんと連弾を披露



ピアノの連弾を披露する若林さん(左)と五道さん
＝裾野市の生涯学習センターゆうあいプラザ

した。「クシコス・ポ
スト」や嵐の「ハピネ
ス」など明るく軽やか
な楽曲を演奏し、会場
から大きな拍手が送ら
れた。
発表会では特別支援
学校や劇団員らが英語
の歌や朗読も披露し
た。

③ (令和3年3月3日・静岡新聞
東部版)

※記事にある「障害者文化芸術発表会」は、
当法人が運営する「県障害者文化芸術活動
支援センターみらーと」東部拠点が開催い
たしました。

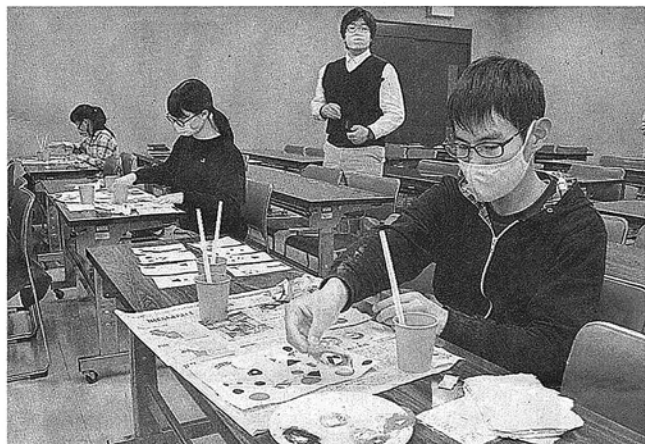
知的障害の5人
自由に絵はがき

中区

浜松市中区の県障害
者文化芸術活動支援セ
ンター「みらーと」西
部拠点はこのほど、オ
リジナルの絵はがきを
作る体験会を同区の市
福祉交流センターで開
いた。

「浜松手をつなぐ育
成会」に所属し、知的
障害がある市内の会員

生徒5人が参加した。
生徒は西区で美術教室
を開く猪原亜希さんの
指導で、「O」「X」
などとりぬかれた型
をはがきにあて、赤、
青、黄色の三種の水
彩絵の具で色を付けて
いった。
市松模様をはじめ、
花や虫をモチーフにし
た柄など思い思いのオ
リジナル作品を完成さ
せると、保護者や友人
と鑑賞した。



オリジナルの絵はがき作りに取り組む参加者
＝浜松市中区の市福祉交流センター

④ (令和3年3月12日・静岡新聞
西部版)

44人の個性作品に 浜松で障がい者アート展

県西部の福祉施設利用者や特別支援学校の生徒たちによる「障がい者アート展示会」が十三日、浜松市中区成子町の市福祉交流センターで始まった。入場無料で十五日まで。

芸術作品を展示することで障がい者たちの社会参加のきっかけをつくる目的で、市社会福祉協議会が、県障害者文化芸術活動支援センター「みらいと」の協力を受けて昨年に続き開いた。十―七十代の男女四十四人の計六十八点が並ぶ。

油彩画や水彩画、書道までさまざまで、手作業で和紙のしわを作ってバラの花を表現する作品もある。全盲詩人の羽田光夏さんの詩のほか、同市北区の共同作業所で働く十代の若者九人が、色鉛筆でそれぞれの東京五輪開催への思いを描いた絵も並ぶ。

(中田弦)



福祉施設利用者らの作品が並ぶ「障がい者アート展示会」＝浜松市中区成子町の市福祉交流センターで

④(令和3年3月14日・中日新聞)

広報実績 2) 雑誌

静鉄ストア

地域の発展や環境問題に配慮した
サステイナブルな『お茶染めマスク』を開発

（株）静鉄ストア（静岡市葵区末広町95、竹田昭男社長）は、『お茶染めマスク』の販売を開始した。『お茶染めマスク』は、しずてつストアのPB商品『選味鮮佃静岡本山茶』の製造過程で出る茶葉を染料にしたオリジナルマスクだ。同社が力を入れるSDGsの取り組みの一環として考案したという。



『お茶染めマスク』

マスクの開発にあたって、生地の色を『お茶染め Washizu』のお茶染め職人に依頼した。駿河和染で染色することでムラなく麻生地に浸透し、洗練された色味になっている。形状を立体構造にしたことで、通気性が良く、暑い季節でも快適に装着できるようにした。『地域の発展

や社会・環境問題への貢献を目指して開発しました。染色に使った茶葉は廃棄せず、当社が取り組んでいる『田んぼプロジェクト』※の田んぼの堆肥として再利用します。コロナ禍において世界的課題になりつつある使い捨てマスクが海に流出する『コロナシム』問題。お茶を染めマスクの販売を通じて、地域の人たちとともに環境課題の解決に寄与していきたいと考えている。

価格は1枚1480円（税抜）。サイズはS、M、Lの3種類。2020年8月末まで、しずてつストア全31店舗で期間限定販売している。

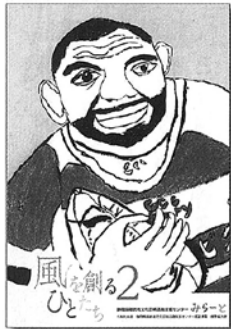
●問い合わせ、0544200570010
※子どもたちの米作りを通じて、食や環境問題について学ぶ機会を提供する事業。

みらーと

令和元年度の活動状況をまとめた
『風を創るひとたち2』を発行

認定NPO法人オールしずおかベストコミュニティ（小出隆司理事長）が県から委託を受け運営している静岡県障害者文化芸術活動支援センターみらーとは、冊子『風を創るひとたち2』を発行した。

みらーとは、文化芸術活動の振興を通じて、障がいのある人たちの社会参加や県民に障がいに対する理解を深めてもらうための活動に取り組んでいる。このほど発行した冊子では、



『風を創るひとたち2』

ラグビーワールドカップにあわせて開催した展示会『ウエルカムアーツ21展』や障がいのある人たちがモデルを務めたファッションショー『Look@me』

e」など令和元年度に取り組んだ活動を紹介します。みらーとの取り組みを情報発信することで、障がいのある人たちの文化芸術活動の現状や支援の実態について広く知っていただきたいと考え冊子を発行しました。

WEB美術館を開設

みらーとでは、静岡県内在住の障がい者アーティストや作品を紹介するサイト『みらーとWEB美術館』『風を創るひとたち2』を開設した。作家、事業所県民と企業を結ぶツールとして活用していきたいと話している。
<https://mirart-shizuoka.com/webmuseum/>

HOTEL CAPSULE INN SHIZUOKA

ご予約 www.capsuleinn-shizuoka.jp

シングル グループ 個室

JR静岡駅南口から徒歩2分。
ビジネスにも観光にも利便性抜群。

PLAN (税別)

- ・シングル ¥3,600/人
- ・グループ ¥5,000/室 (2段ベッド)
- ・個室 ¥8,500/室
- ・napタイム ¥1,000/3h (シャワー・仮眠)

チェックイン16:00~24:00
チェックアウト10:00

〒422-8067 静岡市駿河区南町2-24
(054) 284-5551



Enterprise × Industry
企業 | 産業レポート

静岡鉄道

新型コロナウイルスの感染拡大防止を目的に
鉄道車両の抗ウイルス・抗菌加工を実施

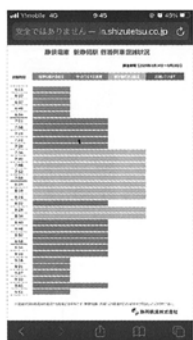
静岡鉄道(株)静岡市区鷹匠1-1-1、今田智久社長は、新型コロナウイルスの感染拡大の防止策として、鉄道車両の抗ウイルス・抗菌加工を行っている。対象は、静岡清水線で運行している全車両。9月中旬から10月下旬にかけて、13編成26両の作業を実施する。

同社では、これまで定期的な車内の消毒や車内換気、ホームページ上で静岡駅に到着する列車の混雑状況を情報発信し、時差通勤を呼びかけるなど予防対策を行ってきた。今回窓ガラス(社内側)、壁や座席、つり革、手すりなどに抗ウイルス・抗菌加工を実施することにより、さらなる安全・安心性を確保した。なお現在運行している新型車両A3000形(16両)には、屋外の空気を取り入れる換気機能が備わっており、冷房使用時は約4分、暖房使用時は約6分で室内の空気を入れ替えることができるという。

なお、前述のホームページでの混雑状況は「座席に座れる程度」「ゆつたり立てる程度」「肩が触れ合う程度」「混雑しています」と、4段階で表示。同社では「今後も新型コロナウイルス感染防止の取り組みを継続し、お客さまに安心してご利用頂けるようにしていきたい」と話している。



コーティング作業の様子



混雑状況の表示画面

オールしずおかベストコミュニティ

農業と福祉事業所の連携事業を推進

認定NPO法人オールしずおかベストコミュニティ小出隆司理事長は、静岡県から委託を受け、農福連携事業を推進している。人手不足の農業を維持する手段として、福祉事業所との連携が注目を

集めているが、日常的な接点が少なく、農福双方の理解不足など課題も多い。そうした現状を踏まえ、同NPO法人では農福連携ワンストップ窓口を設置。今年9月に、静岡市清水

なすび

コロナ禍における歴史の継承
教育的文化弁当『草薙剣弁当』

(株)なすび(静岡市清水区谷田8-2、藤田圭亮社長は、教育的弁当『草薙剣弁当』を新発売した。

毎年、9月下旬に行われる草薙神社の草薙大龍勢。龍勢花火は静岡県指定無形民俗文化財に指定されているなど、地元の人たちにとって、なじみ深いお祭りとなっている。新型コロナウイルスの影響で今年の開催が中止となったなか、「おじいちゃんおばあちゃんからお孫さんまで、家族で龍勢花火について語り継ぐ機会を創出したいと考え、お祭りに見合ったお弁当を考案しました」と藤田尚徳専務は話す。

草薙剣弁当は、「草薙の剣 太刀魚のちらし重(1200円)」と「草薙の剣 太刀魚の蒲焼き重(お茶付き、1000円)」の2種類を、なすびグループの飲食店『草薙 茄兵衛』で取り扱っている。テイクアウトサービ

区のみかん園青木農園と障がい者福祉事業所ライクのマッチングを実現。今後も、農福連携の支援に力を入れていく方針だ。

●問い合わせ、054-251-3515

「ス、おうちdeなすび」で注文することができる。「食を通じて地域に貢献することがなすびグループの使命。『茄兵衛』では、以前から草薙の剣膳というメニューがありました。昨秋秋篠宮ご夫妻がご来静した際にご献上した由来のあるお料理です。草薙剣弁当は、そのお料理をお弁当用に献立をつくり直し、テイクアウトで楽しんでいただけるようにしました。コロナ禍における歴史の継承を目的に考案したお弁当を、ぜひご家庭でお楽しみください。」

●問い合わせ、054-348-8788

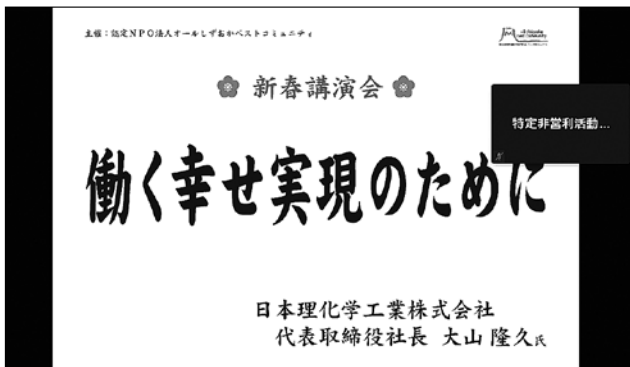


『草薙の剣 太刀魚のちらし重』

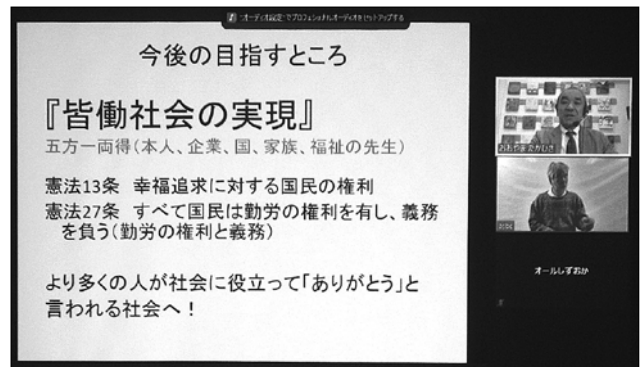


『草薙の剣 太刀魚の蒲焼き重』

【1】新春講演会



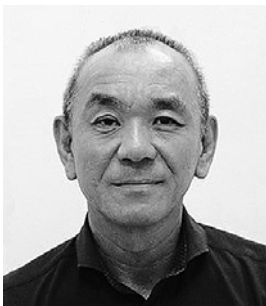
▲演題「働く幸せ実現のために」



▲リモートで講演中の大山隆久社長と手話通訳者

「働く幸せ実現のために」(障害者雇用の先進企業としての企業理念)

日本理化学工業株式会社 代表取締役社長 大山 隆久氏



▲日本理化学工業株式会社
代表取締役社長
大山 隆久氏

直前に新型コロナウイルス感染症予防の為、静岡県より発令された感染拡大緊急警報を受け、急遽会場開催をとりやめリモート（ウェビナー）において、オールしずおかベストコミュニティの新春講演会を開催しました。

講師は、社員全体の 70%以上が知的障がいのある人を雇用している、日本理化学工業株式会社 代表取締役社長 大山隆久氏が務められました。

「働く幸せ実現のために」と題し、障がい者雇用の先進企業としての企業理念など、現在に至る経緯やご苦勞を、大変強い思いを込めながらお話を頂きました。

お客様に高い品質の商品を継続的に提供していくのは当然の事であり、その仕事に携わる障がいのある社員が、今ある能力でできる仕事ができるように、そして、より能力を上げていけるように、作業方法の工夫・改善を行い続けていると、大変有意義なお話を聞かせて頂くことが出来ました。

(障害者働く幸せ創出センター・令和3年1月19日)

【2】共同募金助成事業 こども食堂赤い羽根バースデイ「こども食堂誕生日会・授産製品応援事業」



①こども食堂「おひさま食堂」(函南町)
ケーキ提供事業所：NPO 法人エシカファーム
カフェアルテ・スタジオアルテ (三島市)
(令和2年6月26日)

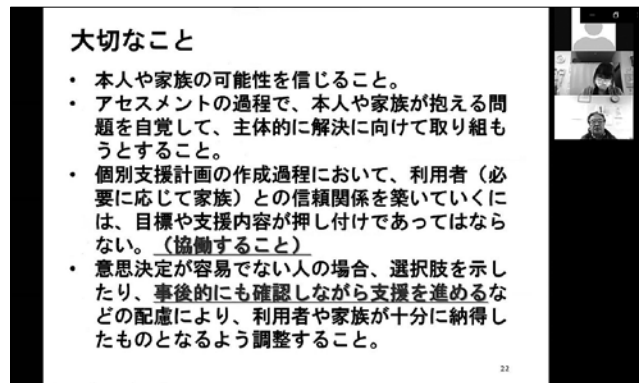
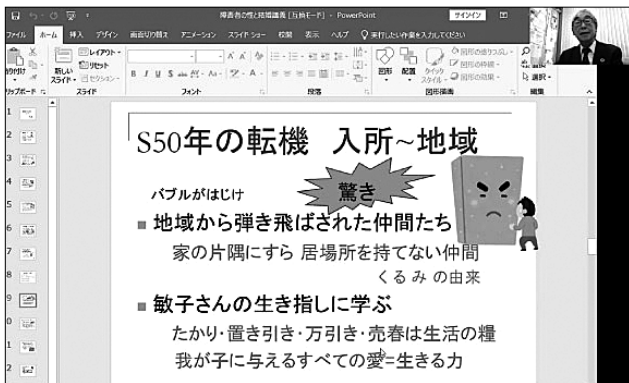


②こども食堂「さくら子ども食堂」(菊川市)
焼き菓子提供事業所：社会福祉法人 草笛の会 (菊川市)
(令和2年7月18日)

「赤い羽根共同募金」助成事業である「こども食堂誕生日会・授産製品応援事業」は、就労継続支援事業所等の製品を「こども食堂」のお誕生日会にプレゼントするもので、こども食堂を利用する子供達と福祉事業所の工賃向上を支援するものです。令和2年度は、1年間で静岡県下62箇所のこども食堂へ、23箇所の障害福祉サービス事業所において製造されたケーキ・焼菓子1,000セットをお届けしました。

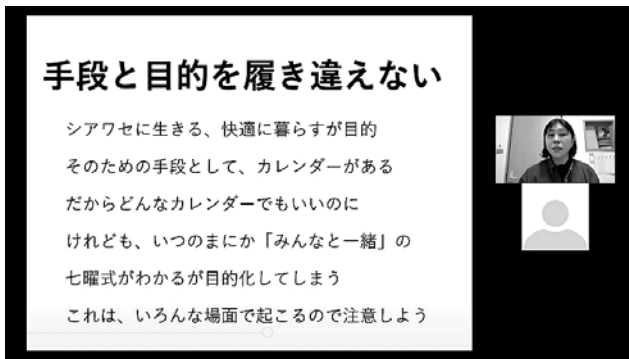
【3】部会活動 研修情報部会による研修会

オールしずおかの会員で作る部会では、定期的な意見交換を行ったり自主研修を開催するなどして研鑽を高めます。



①第1回 障害者の性と結婚について <リモート>
～障害のある人の生き方に向き合うか～
講師：社会福祉法人復泉会 理事長 永井昭氏
(障害者働く幸せ創出センター・令和2年11月10日)

②第2回 個別支援計画書を上手に使う <リモート>
講師：相談支援事業所まど 所長 高木誠一氏
(障害者働く幸せ創出センター・令和2年12月15日)



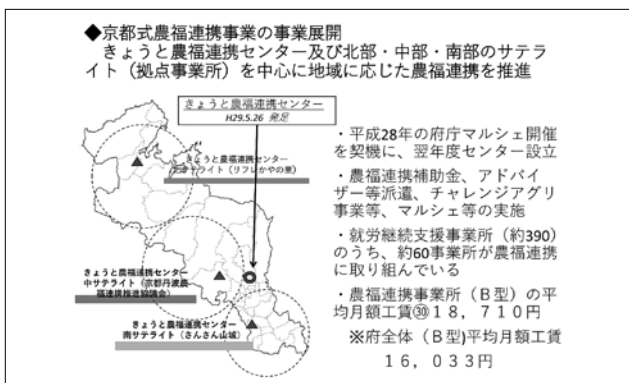
③第3回 障害のある人の暮らしへの視覚的手立て<リモート>
～みとおし・えらぶ・おはなし～
講師：株式会社おめめどう 代表取締役 奥平綾子氏
(障害者働く幸せ創出センター・令和3年2月16日)

【4】農福連携による工賃向上支援事業、農福連携ワンストップ窓口運営事業

農福連携を推進し、農業分野の担い手不足解消に努めるとともに、障がいのある人の農業分野での職域を拡大することで、工賃向上及び農業分野での一般就労の拡大を図ります。

A. 農業技術向上に向けた研修

1) 講義(技術)・農業の基礎、仕組み、農業技術向上や6次産業化等に資する研修



① 第1回 農福先進事例に学ぶ研修 <リモート>
京都式農福連携先進事例に学ぶ
講師：タキイ種苗株式会社 須江淳起氏
きょうと農福連携センター 大平健氏
(障害者働く幸せ創出センター・令和3年3月8日)

② 第2回 6次産業化を学ぶ <リモート>
6次産業化の基礎研修～商品企画からの商品開発へ～
講師：株式会社イワサキ経営 マーケティングアドバイザー 宮口巧氏
(障害者働く幸せ創出センター・令和3年3月22日)

2) 実習・農業の基礎、仕組み、農業技術向上や6次産業化等に資する内容にて参加者が操作や作業等を体験できる実習



① 第1回 刈払い機 WEB 講習 中部
(障害者働く幸せ創出センター・令和2年11月4日)



② 第2回 刈払い機 WEB 講習 西部
(浜松福祉交流センター・令和2年11月13日)



③ 第3回 刈払い機 WEB 講習 東部
(沼津市民文化センター・令和2年11月19日)



④ 第6回 みかん収穫実習 中部
講師：青木 悟 氏 (青木農園・令和2年12月2日)



⑤ 第10回 刈払い機取扱実習 東部
講師：(株)松井農機製作所 宇佐美 勝彦 氏
(三島市 アルシオン圃場・令和3年2月25日)



⑥ 第11回 マーケティング実習 東部
講師：神尾 かおり 氏
(伊豆函南ゲートウェイパーク・令和3年2月26日)

B. 農業技術向上個別支援



① しいたけ栽培及び販売促進 [アルシオン]
講師：株式会社よしもと 代表取締役 吉本 邦弘 氏
(静岡市葵区 よしもとファームにて・令和2年11月27日)



② 土壌改良、とうがらし栽培 [しーぶらす]
講師：農芸環理株式会社 杉山 孔貴 氏
(しーぶらす・令和3年2月10日)



③ 農地に適した農作物の知識 [ワークセンターふたば]
 講師：有限会社 宮本肥料店 宮本 和典氏
 (浜松市西区にて・令和2年10月22日)



④ 6次化に向けた商品開発 [きほくのもり★ペンタス]
 講師：食の恵み 小杉 恵氏
 (掛川市 きほくのもり★ペンタスにて・令和2年12月21日)



⑤ オリーブの収穫増加 [みのり]
 講師：一般社団法人静岡県オリーブ普及協会 理事 近藤 桂裕氏
 (浜松市天竜区 みのり・令和2年12月14日)



⑥ 6次産業化指導 [夢ワークたちばな]
 講師：オーベルジュキャトルセゾン 久米 剛史氏
 (浜松市北区 サンストファクトリーにて・令和2年11月25日)

C. 製品販売会の開催



① 中部地区 販売会 [ステップ・ワン、だいとう作業所、菊川寮]
 (エスパルスドリームプラザ1F 催事スペース・令和2年11月7日)



② 中部地区 販売会 [だいとう作業所、菊川寮]
 (エスパルスドリームプラザ1F 催事スペース・令和2年11月8日)



③ 西部地区 販売会 [みのり、はまかせ]
 (なゆた浜北 朝市会場・令和2年11月10日)



④ 中部地区 販売会 [よしもとファーム、ウイン作業所、みのり、けるん、アルシオン、ステップ・ワン、いぶき、ひこばえ、ラポールファーム、ラポルトタスカ・ベンチタイム]
 (県庁本館 401 会議室・令和2年11月16日)



⑤ 東部地区 販売会 [けるん、リペラインダストリア]
(伊豆ゲートウェイ函南・令和2年11月21日)



⑥ 中部地区 販売会 (バレンタインフェア 農福連携ミニマルシェ)
[けるん、ロバのみみ、ライク、アルシオン]
(県庁本館会議室 403 会議室・令和3年2月2日・3日)



⑦ 中部地区 販売会 [マミーサポートケア友の風、ともの家]
(静岡市清水区 旧柴田醤油醸造所・令和3年2月21日)



⑧ 東部地区 販売会 [アルシオン、けるん、わかくさ共同作業所]
(伊豆ゲートウェイ函南・令和3年3月13日)

D. 農家等と事業所等のマッチング支援



① みかん園除草作業 [ニット工房ライク]
(静岡市清水区 青木農園・令和2年9月7日～10月20日)



② 自然薯土詰め作業 [ワークセンターりんどう]
(静岡市葵区 山翠園 藤田製茶・令和2年10月20日～12月24日)



③ 麦畑作業 [(福) 春風会 プラム]
(伊豆市 いずのやね茅野・令和2年11月25日～11月28日)



④ 老木コケ取作業 [フレンドワークかざぐるま、駿東ドリームビレッジ]
(農事組合法人 伊豆月ヶ瀬梅組合・令和2年11月25日～令和3年3月3日)



⑤ ブロッコリー畑収穫後の片付け [リベラインダストリア]
(三島市 古川農園・令和2年12月1日~15日)



⑥ イチゴ出荷箱 箱折作業 [焼津の空と大地と]
(焼津市 松田農園・令和3年1月5日~5月31日)



⑦ 花桃束上げ作業 [アグリッシュ西丘]
(浜松市 樽井徹様・令和3年2月9日・19日)

【5】静岡県障害者文化芸術活動支援センター「みらーと」

障害のある人の文化芸術活動を支援するため設置され、文化芸術活動に取り組む障害のある人やその家族及び支援者、障害者施設や障害福祉サービス事業所等、文化施設等を支援し、障害のある人の文化芸術活動を振興します。また、障害のある人の文化芸術活動の普及を通して、障害のある人の社会参加と障害や障害のある人に対する県民理解の推進を図ります。

A. 協力委員会の設置



① 第1回協力委員会
今年度の活動計画について、今年度の活動報告
(障害者働く幸せ創出センター・令和2年7月8日)



② 第2回協力委員会 <リモート (zoom)>
7月~9月の活動報告、今後の計画 (令和2年10月27日)
③ 第3回協力委員会 <リモート (zoom)>
10月~12月の活動報告 今後の計画 (令和3年2月3日)

B. 発表等の機会創出

1) ファッションショー



① みらーと 2周年記念イベント Look@me!
モデルウォーキング 無観客 (映像撮影 後日配信)
(清水文化会館マリナート 小ホール・令和2年9月27日)



② みらーと 2周年記念イベント Look@me! 終了後集合写真
無観客 (映像撮影 後日配信)
(清水文化会館マリナート 小ホール・令和2年9月27日)

2) WEB 美術館



みらーと WEB 美術館「風を創るひとたち」開設
URL: <https://mirart-shizuoka.com/>
(令和2年8月5日開設)

3) 舞台発表会



朗読劇「よみがえりの水と魔女」(裾野市生涯学習センター・令和3年2月28日)



ピアノ連弾演奏 (裾野市生涯学習センター・令和3年2月28日)

4) 展示会



① 作品展示会 西部
(中東遠総合医療センター・令和2年10月1日～10月30日)



② 障害者アート作品展 西部
(ニチアス株式会社 浜松研究所ロビー・令和2年11月2日～11月30日)



③ 絵画展示会 東部〔富岳会・見晴学園・悠雲寮〕
(裾野市生涯学習センター・令和2年11月20日～11月25日)



④ みらーと 風を創るひとたち 東部展 2021
〔富岳会・見晴学園・明光会・草笛の会〕
(沼津市 イシバンプラザ4階ギャラリー・令和3年1月27日～2月1日)



⑤ みらーと 風を創るひとたち 中部展 2021
〔それいゆ・ラポールみなみ・ラルシュかなの家・東部すみれの家〕
(静岡市葵区ノアギャラリー・令和3年2月26日～2月28日)



⑥ 障がい者アート展示会 (みらーと協力)
(浜松市福祉交流センター・令和3年3月13日～3月15日)

C. 障害者週間街頭キャンペーン



① 障害者週間に合わせ作品展示
(JR 静岡駅北口地下広場・令和2年12月3日～6日)



② 障害者週間に合わせ作品展示
(JR 静岡駅北口地下広場・令和2年12月3日～6日)

D. ワークショップ

【東部】



① 第1回 パステルアート
講師：パステルアートとアートインストラクター渡邊 慈子 氏
(三島 SBS マイホーム セキスイハイム・令和2年9月28日)



② 第2回 パステルアート
講師：パステルアートとアートインストラクター渡邊 慈子 氏
(三島 SBS マイホーム セキスイハイム・令和2年10月5日)



③ 第3回 パステルアート
講師：パステルアートとアートインストラクター渡邊 慈子 氏
(三島 SBS マイホーム セキスイハイム・令和2年10月26日)



④ 第4回 パステルアート
講師：パステルアートとアートインストラクター渡邊 慈子 氏
(静岡県立沼津特別支援学校 体育館・令和2年12月14日)



⑤ 第5回 パステルアート
講師：パステルアートとアートインストラクター渡邊 慈子 氏
(のびる作業所・令和3年2月8日)

【中部】



① パフォーミングアーツフェスタ Look@me ファッションショー
フィッティングワークショップ
講師：イエッタ代表 中澤弘美氏
(障害者働く幸せ創出センター・令和2年8月23日)



② パフォーミングアーツフェスタ Look@me ファッションショー
ウォーキングワークショップ
講師：LB-MODEL SCHOOL代表 吉田ちか氏
(静岡市清水文化会館 マリナトリハール室・令和2年9月6日)

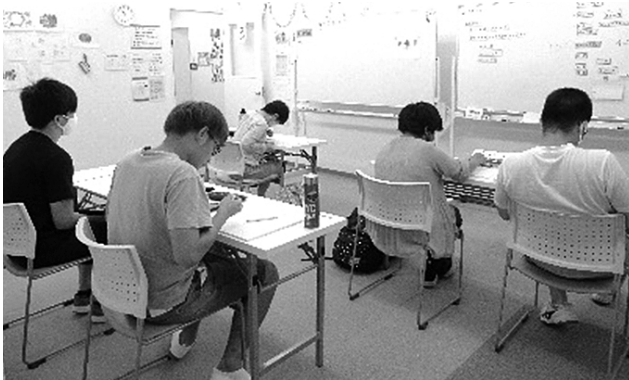
【西部】



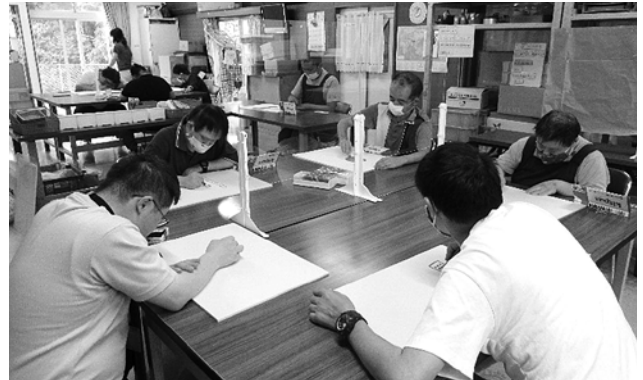
絵葉書ワークショップ (浜松市)
講師：アトリエ doodle 猪原 亜希氏
(浜松市福祉交流センター・令和3年3月7日)

E. オープンアトリエ

【東部】



① 第1回 キットパスを使って自由に絵を描こう！（沼津市）
（株式会社ゆたかカレッジ沼津キャンパス・令和2年9月12日）



② 第2回 キットパスを使って自由に絵を描こう！（駿東郡小山町）
（ワークホーム・アップル・令和2年9月18日）



③ 第3回 キットパスを使って自由に絵を描こう！（伊豆の国市）
（サポートセンターゆめワーク・令和2年10月20日）



④ 第4回 キットパスを使って自由に絵を描こう！（熱海市）
（緑葉会 陽光の園・令和2年11月9・16・30日）



⑤ 第5回 キットパスを使って自由に絵を描こう！（賀茂郡東伊豆町）
（東伊豆ワークセンター・令和2年11月27日）



⑥ 第6回 キットパスを使って自由に絵を描こう！（富士市）
（笑美会 笑居笑居・令和3年1月22日、2月5・19日）

【中部】



① キットパスを使って自由に絵を描こう！（島田市）
（ワークセンターきらり・令和2年11月27日）



② 自由に絵を描いて、ミラーボックスを作ろう！（静岡市）
（ラルシユカナの家・令和3年3月5日）

【西部】



① 第1回 色々な画材を使って、自由に絵を描こう！（掛川市）
（あいあい学園・令和2年10月2日）



② 第2回 色々な画材を使って、自由に絵を描こう！（浜松市）
（引佐草の根作業所・令和2年11月7日）



③ 第3回 色々な画材を使って、自由に絵を描こう！（浜松市）
（地域活動支援センターだんだん・令和2年11月18日）

F. 支援人材育成セミナー



① 支援人材育成セミナー「障害のある人の才能の発掘と育て方」
講師：事業所などでアート療育活動を行う 落合 英男氏
（障害者働く幸せ創出センター会議室+リモート・令和2年11月18日）



② 著作権セミナー「権利擁護を学ぶ」
講師：法テラス弁護士・社会福祉士 山本 明日香氏
（障害者働く幸せ創出センター会議室+リモート・令和2年12月9日）



③ 支援人材育成セミナー「障害のある人のアート活用・発展のヒント」
講師：株式会社スリーパンズ 代表取締役 久保田 優氏
（障害者働く幸せ創出センター会議室+リモート・令和3年2月26日）

農福連携ワンストップ窓口

相談受付：平日 9:00～18:00

〒420-0031

静岡市葵区呉服町 2-1-5 「5 風来館」 4 階

開館時間 9:00～18:00 土日・祝休

TEL: 054-251-3515 FAX: 054-251-3516

HP: <http://www.all-shizuoka.or.jp/noufuku/>

mail: info@all-shizuoka.or.jp



静岡県障害者文化芸術活動支援センター「みらーと」

みらーと事務局

相談受付：平日 10:00～17:00

〒420-0031

静岡市葵区呉服町 2-1-5 「5 風来館」 4 階

開館時間 9:00～18:00 土日・祝休

TEL: 054-251-3520 FAX: 054-251-3516

HP: <https://www.mirart-shizuoka.com/>

mail: info@mirart-shizuoka.com



みらーと東部拠点

相談受付：毎週月曜日 10:00～16:00

〒410-0801

沼津市大手町 1-1-3 沼津産業ビル 1 階

とも沼津店

TEL&FAX: 055-963-9100

みらーと西部拠点

相談受付：毎週月曜日 10:00～16:00

〒430-0929

浜松市中区中央 1-12-1 静岡県浜松総合庁舎 10 階

障害者働く幸せ創出センター西部拠点

TEL&FAX: 053-458-7600

みらーと WEB 美術館 風を創るひとたち

WEB 美術館「風を創るひとたち」

静岡県下の障害者アーティストの紹介・作品紹介をし、同時にアーカイブ化を進め、気軽に誰でも障害者アートに触れる機会を創出し、作家・事業所・静岡県民と企業を結ぶツールとして機能させることを目的としています。

是非、みらーと WEB 美術館「風を創るひとたち」をご覧ください！



URL <https://mirart-shizuoka.com/>

福祉のお店

静岡県下の障害福祉サービス事業所の製品を販売しています

とも静岡店



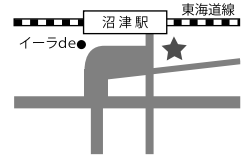
静岡市葵区駿府町 1-70
静岡県総合社会福祉会館
シズウェル1階
9:30～16:30(平日)
土・日・祝他休
TEL：054-251-8123



とも沼津店



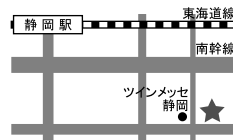
沼津市大手町 1-1-3
沼津産業ビル1階
9:00～16:00(平日)
土・日・祝他休
TEL：055-963-9100



テルベ



静岡市駿河区曲金 3-1-5
イトーヨーカドー静岡店1階
ツインメッセ側エレベーター前
10:00～19:15
年中無休
TEL：050-1224-7044



ふじのくに
福産品
Fujinokuni
Fukusampin

▲ふじのくに福産品
ロゴマーク

障害者働く幸せ創出センター



静岡市葵区呉服町 2-1-5「5 風来館」4階
9:00～18:00
土日・祝他休(第4日曜日は開館)
TEL：054-251-3515



障がいのある人の雇用や就労に関するご相談、会議室の提供や、図書コーナー、ふじのくに福産品の展示等のPRなど、様々な活動を行っています。どなた様もお気軽にお越しください。

こんなご相談は、オールしずおかへ！

- ◎ ノベルティグッズに、障がいのある人の作った福製品を使い社会貢献をしたい
- ◎ 福祉事業所に仕事を発注したい
- ◎ 障がい者雇用に興味があるが、どんな制度を使えるか知りたい
- ◎ 障がいがあり働きたいが、どこに相談してよいかわからない
- ◎ ふじのくに福製品の販路拡大のアイデアがほしい etc.

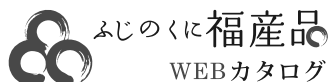
お気軽に
ご相談下さい！



フレッシュな情報を発信中！



<http://www.all-shizuoka.or.jp/>



<http://s-seihin.jp/>



Instagram

https://www.instagram.com/all_shizuoka/



<https://www.facebook.com/allshizuoka>



令和3年7月発行

認定特定非営利活動法人 オールしずおかベストコミュニティ

〒420-0031 静岡県静岡市葵区呉服町 2-1-5 「5 風来館」4階

TEL 054-251-3515 FAX 054-251-3516

Mail info@all-shizuoka.or.jp

公式 HP <http://www.all-shizuoka.or.jp>

